

会 議 要 録

会 議 名		令和6年度 第3回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和6年11月5日（火）午後1時30分～午後2時45分
場 所		小平市役所5階 505会議室
出席者等	委 員	15名（欠席者2名）
	事務局	こども家庭部長、教育指導担当部長、子育て支援課長、地域学習支援課長、生活支援課長（代理）、子育て支援課こども・若者支援担当係長
傍 聴 人		1名
会議内容	1 開 会 2 議 事 (1) こども等の意識・実態調査について (2) 「こどもスマイルムーブメント」参画企業・団体と区市町村による協働事業の実施について 3 情報交換・意見交換 こどもや若者から意見聴取する際に必要な配慮について 4 その他 5 閉 会	
配付資料	・会議次第 ・席次表 ・子育てガイド ・小平市青少年委員だより はつらつ ・広報誌『ひらく』55号	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

2 議 事

(1) こども等の意識・実態調査について

事務局	<p>こども等の意識・実態調査について説明する。本日の第3回青少年問題協議会です承をいただいたのち、11月20日号の市報・ホームページ・市公式LINEにて実施を周知し、11月下旬からアンケート調査を実施する。資料1、資料2、資料3については、第1回・第2回庁内検討部会、第2回・第3回庁内検討委員会、第2回青少年問題協議会でそれぞれ出された意見を基に修正したアンケート項目である。また、9月12日に小学校校長連絡会、10月11日に中学校校長連絡会にてアンケート調査実施について説明し、項目案を示し、ご協力の依頼とご意見を伺った。10月下旬に資料1～3のアンケート項目、資料4～6の依頼文について、決定したので、報告する。</p> <p>資料1、資料2、資料3のうち、修正した箇所について、主なものを説明する。小5・中2の間7、高校生年代の間13、学生一般の間14については、集団でいるのが良いことで、ひとりぼっちが悪いことではない、というご意見を踏まえて、設問を「あなたは、ひとりぼっちだと感じることはありますか」を「あなたが普段感じることは、どれに一番近いですか」に修正し、選択肢を「1. よく思う 2. 時々思う 3. ほとんど思わない 4. 思わない」から「1. 友だちなどと一緒にいるのが心地よい 2. 友だちなどと一緒にいるより一人であるほうが心地よい 3. ひとりぼっちでさみしいと感じることがあ</p>
-----	--

る 4. あてはまるものはない」に修正した。

小5・中2の間11、高校生年代の間21、学生一般の間22については、学校がきらいで という表現があまり適切ではないというご意見を踏まえて、学校がいやで に修正した。

小5・中2の間14、高校生年代・学生一般の間22については、自分がしていることがヤングケアラーに該当しているということに気が付いていない場合があるということで、設問を「あなたは、大人がするような、家事（食事の準備・そうじ・洗たく）や、親・きょうだいなどのお世話を日ごろしていますか。」から「あなたは、次のようなこと親やきょうだいなどにしていますか。」に、選択肢を「1. している 2. していない」から「1. 食事の準備 2. そうじ 3. 洗濯 4. きょうだいの送り迎え 5. ことばの違いなどによる親の会話の補助 6. していない」に修正した。また、ヤングケアラーの定義が拡大されると国から通知があり、学生・一般にも聞くことにした。その後、第2回部会でヤングケアラーと普段のお手伝いとの違いが明確になるように、ヤングケアラーの定義の説明を入れることや、文面の表現について意見があり、設問を「大人に代わって、あなたが中心となり、次のようなことを親きょうだいなどにしていますか。（○はいくつでも）」とし、説明を「ヤングケアラーとは、大人にかわって家事（食事のじゅんび・そうじ・せんたく）や家族のお世話をするこどものことです。」とした。選択肢を「1. 食事のじゅんび 2. そうじ 3. せんたく 4. きょうだいの送りむかえやお世話 5. 親などの食事のほじょなどのお世話 6. ことばのちがいなどによる親の会話のほじょ 7. していない」とした。

小5・中2の間26については、「あなたは将来、こどもを育てたいと考えていますか。」という設問に対し、人数を答える設問が、小学5年生にそこまで聞いてもこどもの存在の大きさがわからないので聞き方を変えたほうがいい、というご意見を踏まえて、設問を「あなたは将来、誰と一緒に暮らしたいですか。」に、選択肢を「1. 自分の結婚相手やパートナー 2. 自分のこども 3. 親 4. おじいちゃん・おばあちゃん 5. きょうだい 6. ひとり 7. その他（ ）」に修正した。その後、部会で設問の意図が伝わらず全部に○がついてしまいそうである、小学5年生で結婚ならイメージがわくかもしれないが、こどもを持つことのイメージがわくのかどうか、という意見があり、設問と選択肢を記載のとおり段階を追って、「好きな人ができたら「つきあいたい」、「つきあいたいと思わない」「わからない、その他」、次に「大人になったら結婚は「したい」「したくない」「わからない、その他」、最後に「大人になったらこどもを「育てたい」「育てたくない」「わからない、その他）」に修正した。

また、アンケート回答画面ではルビを振ることができないため、小学4年生までに習った漢字は漢字で表記し、そのほかはひらがなで表記した。

続いて、アンケートの依頼文について説明する。資料4－1は小5・中2の児童・生徒宛依頼文、資料4－2はその保護者宛通知文である。

資料4－1の小5・中2アンケート依頼文の裏面には困ったときの相談先や、ヤングケアラーに関する周知・啓発記事を掲載する。相談先についてはこども家庭センター、教育部指導課と調整し、ヤングケアラーについてはこども家庭センターと調整し、こども家庭センターが作成したヤングケアラーに関する動画に飛ぶ二次元コードと、相談先を掲載した。

資料4－2の保護者宛通知文の裏面には、こどもと一緒に見てもらうような内容のこどもの権利に関する周知・啓発記事を掲載する。内容についてはユニセフの子どもむけ学習サイト「子どもの権利を考えよう」などを参考に作成した。

いずれも小5以上で習う漢字についてはルビを振った。

	<p>資料５－１は高校・学生一般向け依頼文、資料５－２は高校・学生一般送付用封筒である。資料５－１には相談先等の掲載ができないため、資料５－２の送付用封筒に掲載した。</p> <p>資料６の関係機関向けには、青少年対策地区委員会会長宛、青少年委員宛には地域学習支援課経由でメールにて依頼し、民生委員児童委員・主任児童委員及び保護司には、それぞれの定例会にて回答を依頼する予定としている。青少年対策地区委員会会長、青少年委員、民生委員児童委員・主任児童委員には１１月、保護司には１２月にアンケートを実施し、年内に完了する予定としている。</p> <p>続いて、資料７、資料８のオンライン回答画面イメージであるが。依頼文に記載した二次元コードを読み込むか、ＵＲＬからアクセスしてもらう画面である。資料７は委託業務により集計を行う小５・中２向け調査及び高校・学生一般調査である。これから回答画面を作成するため、今日示している資料は他自治体で回答フォームを作成したときの画面イメージの資料である。先ほど調査項目のところで説明したが、アンケート回答画面ではルビを振ることができないため、小学４年生までに習った漢字は漢字で表記し、そのほかはひらがなで表記することとする。</p> <p>資料８については、関係機関へ向けた調査項目をロゴフォームにて集計画面を事務局で作成して、その画面のイメージである。</p>
委員	<p>アンケート項目について、よく修正されていると思った。資料１の問９の回答の５番目の選択肢で、知らない人につれさ「ら」れそうになった、が正しいのではないか。保護者宛の通知についても学校ホームルーム等の時間内で回答することを想定していると記載しているところや、またこども向けの手紙にも、「このアンケートの答えは誰にも他に、学校の先生もわからないことだから安心してください」とあり、配慮されていると思った。</p>
委員	<p>資料１の大項目について、字が小さいので、もう少し大きいと分かりやすいと思った。アンケート項目だけ見ていると、急にヤングケアラーのことなどが出てくるので、大項目があると分かりやすいと思う。</p>
事務局	<p>オンラインでの回答を想定しており、大項目を回答画面上で表示をするかどうかはこれから調整していきたいと考えている。</p>
委員	<p>２６問あり、ホームルームの時間で入力していくのに間に合うのか、また、その他になっているところはどのように回答するのか。また、未回答の場合は件数が数字でわかるのか。</p>
事務局	<p>朝の学校の時間などで回答をしてもらうということをお願いしており、途中で保存ができるような仕様になっているということなので、時間を区切って分けて回答してもらうことがあるかもしれない。また、その他のところで括弧書きになっているところは、文章で入力してもらうことを想定している。未回答の件数は、集計時に数値でわかる形になる。</p>
委員	<p>資料４の保護者向け通知で、保護者は調査を行うことはわかるが、アンケート項目内容については知る機会はあるのか。オンラインで学校で一斉に行うこともあり、事前に項目をお知らせするようなことはあるのか。</p>

事務局	事前に知らせる予定はないが、調査結果報告を公開後、確認してもらうよう機会はある。また、保護者からお子様に聞いてもらい、知ってもらう方法もある。
会長	小学校・中学校校長連絡会でアンケートについて説明したということだが、アンケート結果についてはフィードバックをする予定はあるのか。
事務局	連絡会でもそのように意見があったので、結果については報告する予定である。

(2) 「こどもスマイルムーブメント」参画企業・団体と区市町村による協働事業の実施について

事務局	<p>資料9の1経緯についてであるが、こどもスマイルムーブメントとは、幅広い主体の連携により、「チルドレンファースト」の社会を創出する東京都の取組で、企業、NPO、大学・学校等の主体が「こどもの目線を大切にした取組」を推進し、こどもを大切にする社会気運の広がりを目指している。こどもスマイルムーブメントの実施事業の一つである「参画企業・団体と区市町村による協働事業」では、東京都が企業・団体と区市町村をマッチングし、それぞれの強みを生かしながら、身近な地域でこどもたちが様々な体験をできるイベントを実施することにより、こどもを大切にするムーブメントの社会全体への浸透を図っている。先般、東京都から小平市に当事業の実施について打診があり、庁内で検討のうえ応募した結果、下記の2つの取組の実施が決定した。</p> <p>2 実施取組 について説明する。(1) 動物とのふれあいを通じて自己肯定感と社会性を育む、動物広場運営体験 について、団体は公益財団法人ハーモニセンタ―、担当課は子育て支援課で実施する。日には令和7年1月19日(日)で、場所は小川町2丁目地域センター公園で実施予定としている。</p> <p>実施内容は、1日動物広場として、ポニー乗馬体験、モルモットなどの小動物のお世話体験を行う。動物広場運営のための仕事(掃除、動物の手入れといった作業。乗馬時などの他者の手助け)に取り組み、役割を持つことで自己肯定感を育む。</p> <p>(2) 発想力や自己効力感の向上に繋げ、地域への理解を深めるアート体験 団体は happy SOSOs、担当課は中央公民館で実施する。日には令和7年1月12日(日)で、場所は中央公民館で実施予定である。実施内容は、こどもが持つ地域のイメージに沿って、グラスサンドアートを作成する。地域へのイメージや作品のコンセプトをこども自身が発表することで、意識深化を図る。</p> <p>両取組とも、本番前にこどもの意見や要望、こどもならではの発想等の意見聴取をするワークショップを11月10日(日)に実施し、本番の取組内容に反映する。また、ワークショップの機会を、(仮称)小平市こども計画策定に関するこどもからの意見聴取の場として活用していく予定である。</p> <p>3 市の役割 について説明する。主に、実施内容に関する団体、東京都との調整への参画、広報の協力、会場の手配を担う。取組実施時の運営は団体が中心となっており、市は適宜補助する。また、市の費用負担は発生しない。</p> <p>4 スケジュール について、11月10日(日)に実施を予定しているワークショップの参加者募集の広報を市報10月20日号にて行った。11月10日に2つのイベントについて、それぞれワークショップを実施する。11月～12月 ワークショップの意見をもとにした取組内容のブラッシュアップを行い、12月中旬から取組本番の参加者募集の広報を市報に掲載し、1月中旬に取組本番を実施する。</p> <p>ワークショップの内容は、東京都こどもスマイルムーブメントのホームページにも掲載されているので後ほど確認してほしい。</p>
-----	---

委員	お世話体験に動物のどのくらい来るのか。順番にお世話をしていく流れになるのか。
事務局	それぞれの動物がおおむね1頭ずつになると想定している。どのような流れにするのか、今後ワークショップを通じて調整していく予定である。
会長	この2つの事業者が参加表明をしてきたということか。
事務局	事務局の東京都に事業者が応募をし、東京都が事業者と市をマッチングした形になる。

3 情報交換・意見交換

こどもや若者から意見聴取する際に必要な配慮について

委員	今度実施されるようなアンケートに自分が回答する場合はどうか、ということを考えてみると、誰がどのようにアンケートの結果を使うのかがわかりやすいと、自分の考えを正直に答えられると思う。アンケートに対する信頼感が増すと思う。そのほかに、友人など、人と相談しながらであると、自分の意見が表明しやすくなるので、こども同志で相談しながら意見が出せるような場があるといい。
委員	今回のアンケートは、学校でみんなが行うことや、入力したことが先生もわからず、個人が守られていることで、意見を出しやすいと思った。ただ、本当に支援が必要な人に対しては、アンケートで終わってしまうのがもったいない。支援が届くようにしてほしいが、誰が答えたかわかってしまうので、そのあたりは考えないといけないと思った。
委員	こどもに意見を聴くときに、大人が主体で進めると、大人に任せてしまって自分たちの意見が言いにくいと思う。中学生・高校生であれば、こども主体でリーダーや司会を任せてグループワークにするなどすると、意見が言いやすいのでは。また、不登校などのこどもの場合は、同じ境遇の人だと意見が出しやすいのではないかな。
委員	アンケートなど、その目的が分かりやすいと自分の意見が言いやすい。自分の意見が反映されることや、自分の意見が何かを動かすという保証があると、意見を発信しやすい。そういうものがないと、アンケートを答えることに徒労感があって、なんのためにやったんだろうとなる。今の若い世代には、徒労感が多いのではないかなと思うので、アンケートに対する信頼があると意見を表明しやすくなるのでは。
委員	日頃小学生とかかわっている中で、学校でアンケートが行われている様子を見てみると、困っていることを書くと、休み時間に先生に話を聞かれるのがいやなので、「なし」で出している子がいる。それを繰り返していると、こどもは自分の意見が言えなくなっていくと感じている。あとは、少数かもしれないが、アンケートを読んで理解することが難しい子が少なからずいると思うので、先生などが補足してくれるといいと思った。
委員	必要な配慮は、場所と、誰が聞くのかということと、方法の3つがポイントになると思っている。あとは、先ほど未回答の人はどうするのか、と質問したが、どのような配慮をするとアンケートに答えてくれるのかと思った。また、これまで話を聞いていて、大人の年代と若い世代は思っていることが違うと感じたので、若い世代への配慮は、若い世代に聞かないと、良い配慮ができないのではないかな。
委員	こどもたちの本当の気持ちを聞き、肯定感をあげていくためには、こどものなかで意見を組み立てられるような場がスタートラインとしてあると良い。こどもの世界は大人に見えない力があり、こどもなりの配慮がある。 また、これだけの質問を理解して、きちんと答えられるようなフォローがあ

	るとよい。言っても無駄だ、書いても無駄だということにならないように、事前にきちんと届くよということを伝えと、安心して回答できると思う。
委員	友だちの意見を聴いて自分の意見が固まってくる場面があると思うので、学校などのグループワークも有効な手段だと思う。反面、自分の発言がどうとらえられるのかと不安になることもあり、回答内容がわからないほうが良い場面もあると思うので、ハイブリットで意見を聴けると良いのでは。
委員	学校などで設問内容の理解について、フォローしてもらえるといい。こどもたちの理解を深める取り組みをし、その回答内容がいかに安全に守られているかがわかると安心して回答できると思う。
委員	アンケートに答えた内容については、親にも先生にも友だちにもわからないことをきちんと伝えること、答えた内容がどのように生かされるのかをきちんと示すことが大事だと思う。今回のアンケートには、結婚やこどものことなど、今まで聞かれたことがないような設問もあるので、これは真面目なもので、ほかの人には回答内容がわからないんだよということをきちんと伝えていくことが大事である。
委員	アンケートを何の目的でやるのかと伝えることがとても大事で、伝え方を間違えてしまうとこどもは適当に答えてしまう。こどもによってはそこまで集中力が続かない場合があるので、答える側が答えやすい配慮をできる範囲で最後まで行う必要がある。また、アンケート答える以外にグループで話す場があると良い。こどもによっては意見が出ない場合もあるので、答えるまで待つてあげるなど、配慮が必要な場合もある。
委員	今回のアンケートは、結果が数値として出てくる。市の施策や事業などに生かされるのはとても良いと思うが、こどもたちが自分たちの意見を数値化したものをどう思うかという、説明してあげない限りは、そんなに興味はないのでは。どんな時に人の意見に一番興味を持つかという、話し合いの場だと思う。意見をあまり言えない子もいるが、多様な意見がある中で、少しずつ自分の意見をまとめられるようになっていくことがあるので、いろんな意見があることがわかることが大事である。また、話し合いやディスカッションを、若い世代の人が小学生・中学生に自分の経験を話しながら進めてくれると気軽に自分の意見が言いやすい。先生がいるとこどもは正解を言わないといけなと思うと思うので、世代が近い人には自由に意見が言えるのではないかと思った。
委員	理解することが難しい子が一定程度いると思う。そういった子には、設問の意図を先生などに説明してもらえるとよいのでは。こどもの真の意見を聴きたいなら1対1が良いのではないかと思う。グループの場合、リーダー格の子に意見が流されてしまうのを感じることもある。自分の家庭のことなどはみんなの前では言えないこともある。今回のように一斉にアンケートを行う場合は、先に回答が終わった人が、人の回答を見ない配慮が必要だと思う。
副会長	心理的安全性が担保されていること。アンケートの場合は匿名性が守られていることが大事である。また、意見を持っても、人前では言えない子もいるので1人ひとり話が聴ける方法が良いと思う。今回、こどもの権利やヤングケアラーに関する設問があるが、特定の施策を念頭に置いている場合、基調講演などを行って問題を提起したうえで、意見を聴取し施策につなげていく方法もあるのではないか。
会長	これまでの意見で、こども同士で話し合うこと、心理的安全性、意見を聴く人が誰なのか、出された意見の活用の問題や、何のために答えるのか、答えた結果どうなったのかわかると結果を実感できるとよい、という意見が出された。また、必要な配慮として、設問が理解できるのか、未回答の子についての意見が出された。今回の出された意見を今後実施される他の施策やアンケートにも反映してほしい。